

第22回 森と花の祭典

みどりの感謝祭

森と花の祭典―「みどりの感謝祭」は、健全な青少年の育成や、地球温暖化防止にも資する緑化運動の推進等を図ることを目的に、「みどりの月間」(4月15日～5月14日)中に実施される各種緑化行事の締めくくりとして開催されています。

今年度は東京都日比谷公園を会場に、5月12日・13日の両日にわたって開催され、併催された「森の市」も含めて、森と緑の恵みを実感できるイベントとなりました。

風薫る新緑の5月、さわやかな晴天に恵まれて開催された「みどりの感謝祭」は、今年で22回目。12日に開催された式典には、秋篠宮同妃両殿下がご臨席されるとともに、横路孝弘衆議院議長、平田健二参議院議長、鹿野道彦農林水産大臣(当時)が出席されました。

東京消防庁音楽隊の演奏にあわせて緑の少年団の子どもたちが入場行進を行った後、主催者を代表して鹿野農林水産大臣が、「森林は、水や生命を育み、自然環境を保全する

役割を果たすとともに、心の豊かさや、潤いのある生活空間づくりをはじめ、私たちの文化・社会の形成にも大きく貢献をしています。先人達が長年にわたり守り育てた森林を、有効に活用し、次の世代に引き継いでいくことが私たちの責務と考えており、森林と林業の再生を通じて、東日本大震災からの復興や地球温暖化防止に向けた取組を推進したい」と挨拶しました。

祭典の名誉総裁・秋篠宮殿下からは、「全国各地で植樹や

緑の募金などの緑化活動が展開され、被災地域の復興にも役立てられていることは、誠に意義深いことであり、本祭典を契機として、多くの人々が身近な緑に触れ、緑化活動に参加することによって、緑化の輪がさらに広がっていくことを祈念します」とのお言葉を頂きました。

このほか式典では、「みどりの文化賞」顕彰をはじめ、緑の少年団・花いっぱい運動の代表に対する苗木と花の特別贈呈、東日本大震災復興緑化用苗木の贈呈、山火事予防ポスター用原画入賞作品の表彰、豊かな森林と木造建造物をテーマとした世界遺産の森と木フォトコンテストの紹介、緑の少年団代表の誓いの言葉などが行われました。



主催者代表挨拶を述べる
鹿野農林水産大臣(当時)

みどりの感謝祭併催行事

もり 森林の市



木工品、山菜、きのこ等の豊かな森林の恵みや地方の特産物の展示販売、親子で楽しめる木工教室や丸太切りなどの体験コーナーのほか、ソプラノ歌手雨谷麻世やミュージカル「葉っぱのフレディ」の子役たち(みどりの大使)によるミニライブなどのアトラクションが行われ、訪れた家族連れ等でにぎわいました。



樹種ごとに異なる香りと感触が楽しめるかんなくずのプール

多くの人でにぎわう展示販売コーナー

日比谷公園の木に登るツリークライミング体験

みどりの文化賞

「みどりの文化賞」は、緑や森林に關し顕著な功績のあつた個人・団体を顕彰する制度で、緑豊かな国土と新しい森林文化の創造に資することを目的として、平成2年から公益社団法人国土緑化推進機構により実施されています。第22回みどりの文化賞は、富山和子氏と佐野藤右衛門氏に贈られました。



受賞者

とみやま かずこ
富山 和子氏

「水と緑と土」は、豊かな自然の原点

水と森林等に係る研究者として知られ、その幅広い研究は「富山学」と呼ばれています。「日本の米カレンダー」制作をはじめとした農林漁業を守る長年のキャンペーンや「21世紀の森林づくり委員会」委員、「緑と水の森林基金(現:「緑と水の森林ファンド」)」委員などの活動を通し、国民の森林・林業への認識の深化に寄与するとともに、山村の人たちの自信や意欲の高揚に貢献した功績が高く評価されました。



受賞者

さの とおうえもん
佐野 藤右衛門氏

さくらは日本のシンボル ~大震災からの復興の励みに

天保3(1833)年創業の(株)植藤造園の16代目佐野藤右衛門(代々、京都仁和寺御室御所に仕えてきた庭師)を襲名し、庭園の設計・施工・管理等を通じて国内はもとより、ヨーロッパ・アメリカ等でも作庭を通じた日本文化の普及に貢献。全国の桜の調査取りまとめや、桜守として日本各地の名桜保全に努めたこと、(財)日本さくらの会副会長としての活動等を通し、日本人の心を癒やす桜を守り育ててきた功績が高く評価されました。